

飯坂温泉

靈

山

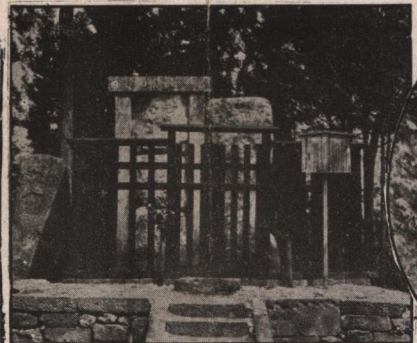
福島電鐵

福島電鐵





向川原



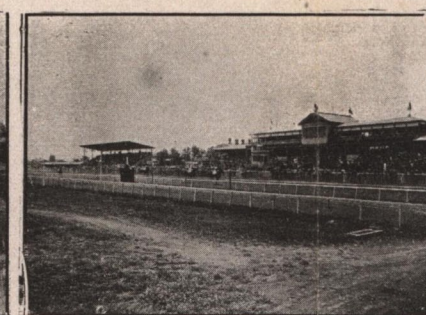
寺王醫



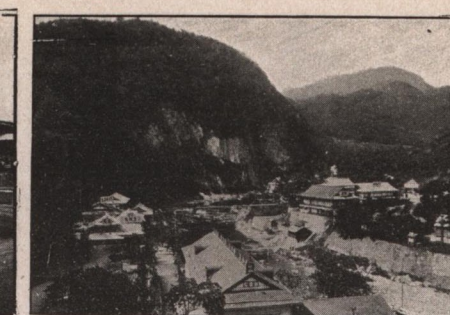
文知知音



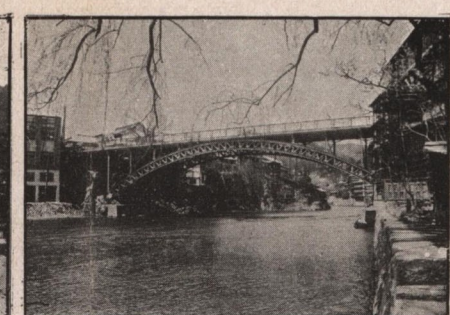
茶白山



場馬競認公



泉温原穴及寺王天



橋網十泉温坂飯



(澤司國)山雲



社神山雲

雲山

貞觀元年僧圓仁の開山にして當時幾十の堂塔伽藍と三千六百の僧坊とを有し、梵鐘の響は峯より峯に傳へて十里の天地を震はし觀經の聲は全山に満ちて、國家鎮護の靈場たり即ち南岳雲山寺是である、その後南北朝の比延元二年正月北畠顯家は義良親王を奉じて雲山に據つた、蓋し土地の形勝と寺院の勢力とは頗るに足る處があつたからである、顯家戦死の後弟顯信其の子守親相次で陸奥介鎮守大將軍を拜し、東陸鎮定に忠勤を抽んでたが、南風遂に號はす雲山其の他の諸城悉く陥るに及び顯信父子は出羽に走つた、そしてさしもに安藤な寺院盡く兵燹に罹り、今僅かに榛莽の間に礎石の有存するを見るのみである、山麓の別格官幣社雲山神社は親房以下北畠四公を祀つてゐる、

雲山への道順

(裏面参照)

大石口……省線福島驛又は伊達驛より電車にて掛田驛に至り、電鐵乗合自動車を利用して別格官幣社雲山神社を参拜の上、指導標により探勝し、石田口より福島行乗合自動車にて掛田驛に歸る、石田口……掛田驛より電鐵定期乗合自動車を利用して、行合道から登山し、雲山神社に参拜し、定期乗合自動車にて掛田驛に歸る、又福島より相馬中村行自動車を利用して可い、

雲山探勝案内

(裏面参照)

一、雲山神社表参道から、徒歩約廿町で柴明峯の全景巍然として展開し、間もなく雲山閣に達する、一、此處から一ノ鳥井を経て、絶頂日枝神社に至るものと、柴明峯の岩の間を縫うて、同所に至るものとある、後者は道が稍困難であるが、登山趣味たつぷりで誰しも快哉を叫ぶ、一、日枝神社から東すれば、雲山寺跡で断崖の間に懐古の情湧き、低徊する能はざるものがある、南すれば國司館に至る、信達平野一眸の下にあり、又遠く渺茫たる大太平洋の煙波を望むことが出来る、一、國司館を南に下れば國司澤の絶景を賞で、錦霞溪を経て、行合道方面に下山する、又右に入り或は左に折れて、護摩壇、東物見、五百羅漢、日暮岩等を探るも面白い、

◇石田口(行合道又は藤瀬より)一、自動車より降り全景を見上げつ、錦霞溪に達す、幹線によれば左に國司澤の絶景を賞で國司館に達す、

一、健脚の士は錦霞溪を過ぎ指導標により右に折れ、日暮岩、五百羅漢岩、東物見岩等を経て國司館に達するも可い、又國司館より西に入り、護摩壇等を探るのも隨意である、一、國司館より日枝神社前に出で東すれば雲山寺跡で断崖の間に千古の昔を懐ふことが出来る、日枝神社前より雲山碑を拜し一ノ鳥井跡方面に下山するのである、一、柴明峯の岩の間を縫うて雲山閣に出するも面白いが路は稍困難である、

新緑紅葉の季節には雲山神社参拜雲山探勝遊券を發賣す

飯坂温泉

交通ト通信 省線上野、福島間急行、準急共、五時間三十分 電車、福島、飯坂温泉間、三十分、伊達、飯坂間、十五分 電信電話(長距離通話取扱) 概ね湯鹽泉と輕微なる硫黄泉にして無色透明なり「ラヂウムエマナチオン」を含有す 温度、三十六度乃至、五十七度 胃腸病、腦神經病、リウマチス、疝氣、婦人病、萎黃病、花柳病、皮膚病、切傷、其他

旅 館 一泊二食付、壹圓五拾錢より五圓まで、各々宴會場を有す 此は海拔一二〇米、東方は摺上川を隔て、湯野温泉に對し、十網橋を以て通じて居る、北には突元した大山が有り、東南は開けて田圃に連なり、信夫伊達の山河を雲煙の間に望む、旅館はすべて川に臨んで断崖の上から下に沿うて建ち、清流に影を浮べて居る、此を川面から望めば皆三、四層の高樓であるが、道路から見れば普通の平家建に見える、それで内部の構造も最上階が玄關で、順次階階に向つて客室が出来て居る、夏の夕網橋に立れば、水面に紅燈が輝き、絃歌おこり京都の四條河原の情に似てそのさざめきも、なんとなく都を偲ばれるところがあり、脂粉の香飄くにじんて居る附近の佐藤庄司基治の據つた鵬城は、今公園となつてゐる、町の西一軒の醫王寺(醫王寺前停留場西三丁)は、佐藤氏の菩提所で、弘法大師の開基建立にかゝり、大師作の藥師佛を本尊とし本堂に安置してある、本堂の裏に老松あり亭々として萬古の蒼色を呈し、枝皆下垂せり、虎尾松と稱し、源義經の手植なりと云傳ふ、藥師堂の北側に佐藤基治夫妻及其の子繼信、忠信の墓碑がある、わけて繼信兄弟が其の主義經に捧げた忠誠は、今も尙悲しくも美はしい物語りとして、諸曲に、芝居に、後人の胸を打つてゐる、その碑は義經が此のいとはしい臣下へのせめてもの供養にと限りない哀傷の涙と共に建立せるものであると云ふ、寶物として義經の直垂、太刀、辨慶の笏、繼信、忠信、の甲冑の旗竿たりし双股竹の旗竿、基治の陣太刀、同室内乙和の眞筆たる、源氏物語寫本等を藏す、芭蕉の「笈も太刀も五月にかざれ紙のぼり」の句碑がある、

天王寺穴原温泉、摺上川の支流飯坂温泉を距る、約二軒の所にあり、川を隔て、相對し其の間に大きな釣橋が架つて摺上川の溪谷は穴原邊に至つて、岩石の姿態が愈々面白く、翠松これを蓋うて清流其の下に躍り、この風光に添ふるに數軒の旅館を以てしたところ、正に一幅の畫景である、 福島競馬俱樂部(競馬場前停留場) 大正十一年成立に係る公認競馬場にして競馬は春秋二季に盛大に開催せられ、長くも帝室御賞典を御下賜あらせらる、 文知知音(文知知音通停留場より東十八丁) みちのくのしのぶもちりたれ故に みだれそめにしわねならなくに」の詠歌に有名である 芭蕉の「早苗とる手もとやむかし」の句碑がある、 長岡天王(長岡分岐点停留場より一丁) 養蠶安全農家の信仰あつて、舊六月十四、五日の例祭における参詣客の多い事は東北屈指と稱せらる、 向川原(向川原停留場) 東北有数のさくらの名所にして、阿武隈川の舊堤に咲く花は幾々一里に及び美事なる花のトンネルを作つて居る、 茶臼山(掛田驛東二丁) 南朝の史蹟懸田城を公園になしたるものにして、一目千本満山花にうづもれる光景は華麗そのものである、樹下一面の芝生はビクニクに好適である、

表賃運

(表程附)

Table with 2 columns: Station names and fares. Includes stations like 飯坂温泉, 保原, 梁川, 掛田, 長岡, 福島, etc.

主所要間所要時間表(分)

Table with 2 columns: Station names and travel times. Includes stations like 飯坂温泉, 保原, 梁川, 掛田, 長岡, 福島, etc.

時間表

Table with 2 columns: Station names and departure times. Includes stations like 飯坂温泉, 保原, 梁川, 掛田, 長岡, 福島, etc.